

原料 × 製法

へのこだわり ものへのこだわり

ニュージーランドメリノを選ぶ理由

- 「クリンプ」と呼ばれる原毛の縮れが大きく、そのため、糸の仕上がりが軽くなります。
- 原毛そのものの白度の高さが、染め上りの美しさを生み出します。
- 繊細で均一な繊維が風合の良さを実現します。

バルキー加工 | さらに、アメリーは、バルキー性に富むアクリルをブレンドしていますので、バルキー加工(スチームをあててふくらませる加工)により、抜群のふくらみ感を実感しています。



アクリルブレンドのメリット

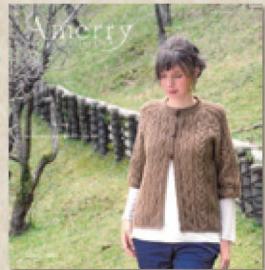
- バルキー性(膨らむ性質)に富むアクリルを程よくブレンドすることで、抜群の弾力性、保温性を実現しています。
- アクリル自体の比重の軽さから、糸全体が軽く仕上がっていきます。また、発色の良さも特徴のひとつです。
- アクリル本来の形状を保持する力が、糸の型崩れを防いでくれます。

アメリーは、「トップ染め」

「トップ染め」とは、染色において、糸になつてから染めるのではなく、糸になる前の原綿(わたの状態)から染める方法です。糸染め(糸になつてから染めること)よりも、時間と手間をかけています。そのメリットは、手触りが原綿の風合を損ねることなくふくらとし、糸痩せしにくいこと。また、発色が、鮮やかで美しく、染めムラがないこと。さらに、堅牢度が高く、色あせ、色落ちしにくいことがあげられます。

作品集紹介

アメリーの発売にあわせて
素敵な作品がたっぷり掲載された
作品集も発売されました。



アメリー デザインコレクション

210x220mm／ハマナカ
500円＜税別＞



24色の糸で編む
ニットウェアとこもの
B5判／文化出版局
1,250円＜税別＞



気軽に編みたい
大人の
旬ニット
AB判／ブリック社
907円＜税別＞

ハマナカ株式会社 濱中知子社長から

なぜメリノとアクリルを混ぜたの?という質問をよくいただきます。「産地をニュージーランドにこだわったメリノ糸が作りたい」という企画があがってきたとき、私はハマナカが最も得意な合成繊維^{※1}を混ぜた混紡糸でいきたいと答えました。

それからは早かったです。アクリルはそもそもウールに似せて作られた合織ですが、いろいろな種類があります。ニュージーランドウールを工場長が触りながら、じやあこのアクリルを混ぜてやってみようと、とんとん拍子に決まっていきました。

アクリルを混ぜることのメリットはたくさんありますが、大きな特徴はふくらとした形状を保持できる、軽い、発色がよい、丈夫、虫に強い、保温性が高い、ピーリングを減らすことができる…。文字通り理想的な糸になるんです。

実は世界でも最も早く混紡糸を発売したのはハマナカです。

羊毛にはメリットもあればデメリットもあります。合織でデメリットを補い、世界一の「優性結婚糸」^{※2}を作りたい。原点に立ち返って、長く愛される糸を!その想いから生まれたのがハマナカアメリー。

名前の由来は、アクリルのアとメリノのメリ、長く愛されたいからアメリーと伸ばしました。

次世代の定番糸、ぜひお手にとって、そのよさを実感して下さい。

^{※1} 合成繊維(略して合織)とは石油をもとにした原料でつくられた繊維。ウールに似せてつくられた合織はアクリルであり、ウールの長所とアクリルの長所を混ぜてよりよい糸を開発したいという発想からハマナカの混紡糸は生まれました。

^{※2} ハマナカ創業者は天然繊維の長所と合織の長所を掛け合わせた理想的な糸を作るという思いで混紡糸のことを優性結婚糸と呼んでいました。

ハマナカホビール 西村工場長から

アメリーの紡績(各原料を糸にする)を担当するのがハマナカホビールです。今回、開発したアメリーは、ニュージーランドウールの豊かな膨らみと、肌触りのいい原料を使用することで、ふくらソフトな糸にしています。アメリーは色にもこだわっています。糸を見ただけでは判りませんが、単色(1色だけ)で構成されているものはほとんどありません。半分以上は4~5色をミックスして、深みのある色合いに仕上げています。

そして、その微妙な色を出すために2回目、次に3回目、4回目…と混ぜて行きます。これを繰り返してやつと満足のいく色になります。

「素晴らしい風合いの原料、きれいな色合い」をそのまま生かして糸にするのが工場の使命ですので、各工程のスピード、投入方法、使用機械の選択等を指定して、安心・安全な上に最高の風合いを目指して生産しています。

ハマナカ株式会社 企画開発部 立崎から

取材で訪れたニュージーランドで感じたのは、「今見ている風景がずっとここにあるだろうな」という安心感でした。

羊のいる風景、農場の方の暮らし、シンプルで無駄がなく、それでいて上質で贅沢。それが手編みのある暮らしと共に通している気がしました。

「いつまでも変わらない安心感を持つ、手編みのある暮らしに寄りそう商品にしたい」その思いを込めて、企画に携わらせて頂きました。



※鎖は束に拾う

× = 細編み

↓ = 長編み

— = 引き抜き

